

第127号

2020.8 発行

総研大

NEWSLETTER



彫刻展「種に還る果実」鈴木丘 × SOKENDAI

<https://www.soken.ac.jp/news/6735>



トピックス

- ◆ 天文科学専攻 入試ガイダンスを開催
- ◆ 宇宙科学専攻 専攻説明会を開催
- ◆ 日本文学研究専攻 Web 茶話会を開催
- ◆ 高エネルギー加速器研究機構 初のライブ配信型説明会を開催
- ◆ 葉山キャンパス 葉山町との「災害時における施設等の利用に関する協定」締結
- ◆ 葉山キャンパス 彫刻展「種に還る果実」鈴木丘 × SOKENDAI 開催

受賞情報

プレスリリース情報

メディア等出演・掲載情報

イベント情報

5/9

天文科学専攻入試ガイダンスを開催

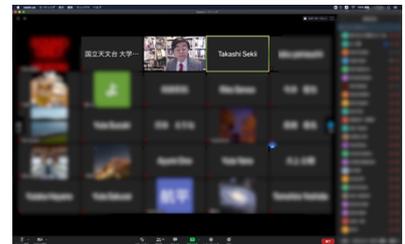


天文科学専攻による入試ガイダンスが5月9日(土)に開催されました。例年では国立天文台三鷹キャンパスでの開催となりますが、今年は昨今の事情から、オンラインでの開催となりました。直接、面と向かって話ができないのは残念ではありましたが、一方どこからでも参加できるという手軽さもあってか、普段のガイダンスよりも若干多めの85名の参加がありました。

初めに5人の講師から国立天文台で行われている最前線の研究の紹介がありました。ALMA やすばる望遠鏡による最新の研究結果、さらには将来の30m望遠鏡(TMT)を用いたサイエンスの紹介まで、多くの目を引く写真が参加者の興味をかき立てたことと思います。観測的研究に加えて、観測装置そのものを作る現場の最前線や、大規模計算機を用いた理論シミュレーションの紹介もありました。サイエンステーマについても、遠方銀河から惑星形

成、さらにはブラックホールと非常に多岐にわたり、国立天文台での研究を知っていただくいい機会になったと思います。

講演の後は、大学院での研究や大学院生活について教員や学生と懇談する時間を用意しました。普段であれば直接話ができるのですが、オンライン会議でこういった懇談がうまくいくのか、開催する側は非常に不安でした。参加者には複数のオンライン会議室を出入りするという負担をかけましたが、結果的に大きな混乱はなく、教員も参加者も懇談を楽しまれたようでした。



開催の様子 (Zoom 画面)

来年のガイダンスの頃にどう

いう状況になっているかはわかりませんが、天文科学専攻では今後も柔軟に対応し、総研大受験を考えている学生の皆さんに有益な情報をお届けしたいと考えています。

【天文科学専攻 准教授 田中賢幸 (国立天文台ハワイ観測所)】

5/30

宇宙科学専攻 専攻説明会を開催

物理科学研究科宇宙科学専攻では、進学希望者を対象とした専攻説明会を5月30日(土)に開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、専攻のあるJAXA相模原キャンパスが閉鎖中のため、初めてのリモート開催となりました。

今回、学部4年生を中心に29名の参加がありましたが、これまで未経験のリモート開催のため、事前申込みをした参加者に対してのみ接続情報を送

り、当日は開始時間である13:30の5分前に集合し、接続状態の確認を行いました。

説明会では、まず堂谷専攻長から宇宙科学専攻や、母体であるJAXA宇宙科学研究所の研究内容の紹介、宇宙科学専攻の学生サポート体制や入試に関する説明を行い、次に在學生やOBに、宇宙科学専攻での研究生活やキャリアに関するそれぞれの経験や考えを語っていただきました。質疑応答では、リモートだと質問がしにくいということが予想された

ため、事前に参加者からメールで質問を募集し、その回答説明から始めたところ、その後は参加者からも積極的に手が上がり、充実したやりとりとなりました。やはり、新型コロナウイルスの影響による入学試験への影響についての質問が多く出ました。なお、質疑応答の一覧をまとめたものを参考資料として説明会終了後に参加者に送付しました。

また、質疑応答の途中から、分野別相談会も並行して行いました。予め参加者から志望教員の指名を受けた教員を中心に、3つのセッションを設けましたが、それぞれ1名の参加者との個別相談になったようです。説明会の本編は15:30頃に終了し、その後は在學生と参加者有志の懇談会を行いました。

終了後に参加者に行ったアンケートでは、おおむね満足度は高かったようです。特に在學生やOBの

生の声は好評でした。参加者は既に大学でのリモート講義などでこの種のシステムに慣れているため、ほぼ問題なく参加出来たようです。リモートでの開催については、移動の手間がなく気軽に参加して情報が得られるというメリットの反面、「現場」が見られないというデメリットもあり、参加者からも、主催者としても、一長一短があると感じました。しかし、これからの時代には「リモート開催」と「実体開催」の双方のメリットを活かす事が重要で、今回の経験を基にさらに運営を工夫し、効果の高いものにしていきたいと考えています。なお、宇宙科学専攻では8月下旬に「夏の体験入学」を、実体参加で開催する予定です。

【宇宙科学専攻 准教授 山村一誠】



日本文学研究専攻 Web 茶話会を開催

2020年6月4日(木)、新入生と在學生、ロバート キャンベル国文学研究資料館長、主任指導教員、修了生が参加してWeb茶話会を開催しました。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、入学式やオリエンテーションは中止となりました。そのようななか、この茶話会はオンライン形式で気軽に話せる機会を設け、新入生と教職員、在學生、修了生が交流することで、新入生が国文研での研究活動や学生生活を知り、その不安を少しでも軽減できたらいという思いから企画されました。

当日は終始和やかな雰囲気の中、参加者は自身の研究内容や最近の家での過ごし方について語られました。研究の進め方や資料活用のアドバイスなど、国文研ならではの環境を生かした学びについてもふれられ、参加した新入生は「緊張しましたが、先生方、先輩方と話せて楽しい時間を過ごせました。うかがったお話を生かしてコツコツと研究を進めていきたい」と今後の研究活動と学生生活に期待を寄せていました。

【日本文学研究専攻】



高エネルギー加速器科学研究科初のライブ配信型説明会を開催

高エネルギー加速器科学研究科3専攻(加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻)は7月3日(金)にライブ配信型での高エネルギー加速器科学研究科大学院説明会を開催いたしました。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年3月、6月に学術総合センター(東京都千代田区)で開催している大学院説明会は中止としておりまし

た。この状況を鑑み、少しでも受験を希望する方へ情報を提供する機会を設けたいとの研究科の方針で、7月の大学院説明会は中止とせず、研究科では初の試みとなるオンライン(LIVE)で行う運びとなりました。オンラインでの大学院説明会は自宅から気軽に参加できるといったことなどが影響し、参

加者 21 名と昨年の参加者を超える盛況ぶりでした。



ライブ配信型で説明会を行う高エネ研究科教員の様子

説明会は第 1 部、第 2 部に分かれて行われました。第 1 部は、磯研究科長の研究科概要の説明から始まり、各専攻 2 名ずつ計 6 名の総研大担当教員から各専攻の紹介について講演が行われました。第 1 部の最後は質疑応答となり、「総研大で学ぶ上で大切な心構えは何ですか」「入試までにどんな準備をしたら良いですか」など、オンラインならではのチャット機能を介した様々な質問が飛び交い、大いににぎわいを見せました。

第 2 部では、参加者が興味のある専攻（加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻（理論）（実験））4 つに分かれて専攻別説明会が開催されました。専攻別説明会では、総研大教員や在校生から第 1 部よりもさらに詳しく各専攻の説明が行われ、参加者が説明を聞きうなずく姿やメモを取る様子などから、興味のある専攻への理解を深めたいとの熱意が画面越しに伝わってきました。第 2 部終了後は、在校生と参加者とのオンライン懇談会が開かれ、2 時間以上にわたり学生生活など普段の説明会ではなかなか聞くことのできない話題で盛り上がりました。

新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい生活様式」が広まりを見せる中で、当たり前のように今まで対面式で行っていた大学院説明会を根本から見直す機会となりました。今回の開催を糧に参加者により良いイベントを提供できるよう、広報活動のさらなる工夫が求められます。

【高エネルギー加速器科学研究所】



葉山キャンパスと葉山町 「災害時における施設等の利用に関する協定」締結

令和 2 年 8 月 4 日、葉山町役場町長室にて、「災害時における施設等の利用に関する協定」締結式が行われました。この協定により、非常災害時、葉山町の方々に、本学の施設をご利用いただくことができるようになります。締結式には、葉山町・山梨崇仁町長、本学・長谷川眞理子学長らが出席し、協定書を取り交わしました。様々な予測のできない災害が発生している昨今、葉山町と本学とで協力して災害への備えをすすめるとともに、災害時のみならず、日常的な連携を構築するきっかけとなることが期待されます。



協定書を取り交わす長谷川学長（左）と山梨葉山町町長（右）

【広報社会連携係】



葉山キャンパス 「種に還る果実」 鈴木丘 × SOKENDAI

葉山キャンパスでは、8月3日(月)から9月30日(水)の期間、「生命」をテーマに多数の作品を創作されている金属造形家・鈴木丘氏の『種に還る果実』の彫刻展覧会を開催しております。

鈴木丘氏には、1995年の葉山キャンパス竣工と同時期に、野外彫刻「COSMOS」をご提供いただき、以来、本学前庭に展示されております。この度、鈴木丘氏の近作を含めた11点の彫刻を展示しています。



コロナウイルス感染症への対策を十分に行ったうえで、地域住民の方々を中心に鑑賞いただいております。

Web ページに動画も掲載しておりますのでご覧いただければ幸いです。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/6735/>



【広報社会連携係】

Awards

■ 日本文学研究専攻 古明地 樹 在学 全国大学国語国文学会 文学・語学賞を受賞

本学の在学学生、古明地樹さんの論文「橘守国の絵手本作品における画題の和漢分類意識—レイアウトを起点に一」が、全国大学国語国文学会 文学・語学賞を受賞いたしました。

[受賞者コメント]

栄誉ある賞を賜り、誠に光栄です。手法の新規性を評価して頂いた本論文ですが、この研究は指導教員の山下則子先生をはじめ、多くの先生方のご指導に支えられたものです。改めて御礼申し上げます。一層邁進し、今後の研究に取り組んで参りたいと思います。

■ 国際日本研究専攻 君島 彩子 修了生 第十五回（公財）国際宗教研究所賞・奨励賞を受賞

本学の修了生、君島彩子さんの博士論文「平和祈念信仰における観音像の研究」が、第十五回（公財）国際宗教研究所賞・奨励賞を受賞いたしました。

[URL]

<https://www.soken.ac.jp/news/6657/>



[受賞理由]

数多くの文献・資料を渉猟し、国内外の数多くの観音像の前に足を運んで地道に積み重ねられた努力の結晶が本作である。研究への情熱が行間に滲み出る作品であったことを、研究所として高く評価する。

■ 第9回自然科学研究機構若手研究者賞受賞

自然科学研究機構では、毎年、5研究機関に所属する若手研究者の中から、優秀な研究成果を輩出した研究者を各々1名、計5名選出し、若手研究者賞を授

与しています。本年度は本学教員を含む以下5名が受賞しました。



【URL】

<https://www.nins.jp/site/connection/09wakate.html>

受賞者	受賞の対象となった研究業績
守屋 堯 天文科学専攻／国立天文台 助教	恒星はいかにして終焉の時を迎えるのか
本島 巖 核融合科学専攻／核融合科学研究所 准教授	未来エネルギー「超高温核融合プラズマ」を実現する鍵 【受賞コメント】 多くの共同研究者、技術者の皆様のご支援のおかげで受賞することができました。今後は核融合発電の実現に向け、水素燃料の粒子制御研究を更に発展させていきたいと思ひます。
中島 健一朗 生理科学専攻／生理学研究所 准教授	脳で味を感じる仕組み
グエン・タン・フク 構造分子科学専攻／分子科学研究所 助教	原子分子の量子ダイナミクスの理論研究
大坪 瑤子 基礎生物学研究所 特任助教	環境変化に細胞はどのように応答しているのか？

Press Release

2020.5.15

ゲノム重複が食虫植物の進化を牽引

～ モウセンゴケ科に属するコモウセンゴケ、ハエトリソウ、ムジナモの3種のゲノム解読により判明 ～



本研究でゲノム解読したモウセンゴケ科の3種

モウセンゴケ属コモウセンゴケ、ハエトリソウ属ハエトリソウ、ムジナモ属ムジナモ。

【研究概要】

食虫植物は葉で小動物を誘引、捕獲、消化、吸収し、栄養としています。このため、他の植物が生育できないような貧栄養地で生育することが可能です。食虫植物は植物の進化の中で、9回独立に進化したと推定されており、世界に約600種が知られています。基礎生物学研究所および総合研究大学院大学の長谷部光泰教授らを中心とした研究グループでは、2017年に壺型の捕虫葉を形成するフクロユキノシタのゲノムを解読し、消化酵素は耐病性遺伝子から進化した可能性が高いことを発表しました。しかし、耐病性遺伝子がどのようにして消化酵素へと進化できたのかは不明でした。今回、ゲルゴ パルフアルビ大学院生、長谷部光泰教授らは、金沢大学西山智明助教、宇都宮大学玉田洋介准教授、およびヴェルツブルク大学（ドイツ）ライナー ヘドリッヒ教授などとの共同研究により、フクロユキノシタとは別の科であるモウセンゴケ科に含まれる、コモウセンゴケ、ハエトリソウ、ムジナモの3種のゲノム解読を行いました。その結果、モウセンゴケ科の祖先で全ての遺伝子がゲノム重複によって倍に増え、増えた遺伝子が消化酵素に加え、誘引、捕獲、吸収に関わる機能を進化させた可能性が高いことがわかりました。この成果は米国東部時間2020年5月14日付でCurrent Biology誌に掲載されます。

【研究グループ】

本研究は、日本の自然科学研究機構基礎生物学研究所、総合研究大学院大学、金沢大学、東海大学、岐阜大学、宇都宮大学、ドイツのヴェルツブルク大学、ハノーファー大学、ライプニッツ植物遺伝学・作物研究所、生物地球科学研究所、チェコ共和国のチェコ科学アカデミー植物研究所、サウジアラビアのキングサワード大学が参加した共同研究です。

【研究サポート】

本研究は、科学研究費補助金 新学術領域研究(22128001、22128002、17H06384、17H06390)等の補助を受けて実施されました。

【論文情報】

- ・ 掲載誌：Current Biology
- ・ 掲載日：米国東部時間2020年5月14日午前11時
- ・ 論文タイトル：Genomes of the Venus Flytrap and close relatives unveil the roots of plant carnivory

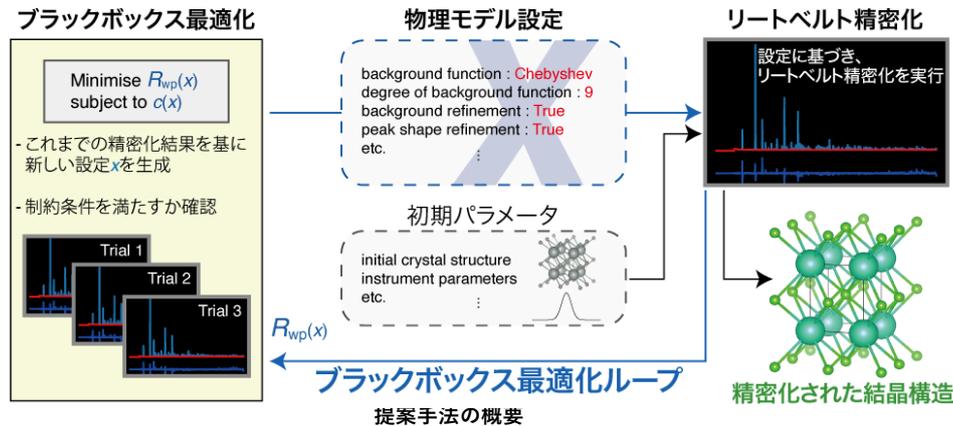
【本研究に関わった本学学生・教員】

Gergo Palfalvi（基礎生物学専攻 学生／基礎生物学研究所・共同第一著者）、上田千晴（基礎生物学専攻 学生／基礎生物学研究所）、福島健児（基礎生物学専攻 学生／基礎生物学研究所・ヴェルツブルク大学）、重信秀治（基礎生物学専攻／基礎生物学研究所 教授）、玉田洋介（基礎生物学専攻／基礎生物学研究所 助教（2019年8月より宇都宮大学准教授））、長谷部光泰（基礎生物学専攻／基礎生物学研究所 教授・共同責任著者）

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/6643/>

結晶構造解析の自動化～ブラックボックス最適化により熟練者を上回る解析精度を達成～



本計測した PXRD パターンと、物理モデルから計算される PXRD パターンのあてはまり誤差 $R_{wp}(x)$ を小さくするように、ブラックボックス最適化を用いて物理モデルの設定 x を生成し、あてはまりのよい設定を見つけ出す。物理モデルで設定するパラメータはバックグラウンドを表す関数 (background function) の種類など。

【研究概要】

大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 物質構造科学研究所量子ビーム連携研究センターの小野 寛太 准教授を中心とする KEK および総合研究大学院大学の研究グループと、国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センターの大西 正輝 社会知能研究チーム長を中心とする研究グループは共同で、数理最適化の一手法であるブラックボックス最適化 (※1) 手法を用いて、物質・材料研究に必要な粉末 X 線回折 (PXRD) (※2) パターンの解析を自動化・高効率化する手法を開発しました。

PXRD 法は、物質・材料の機能と性質を支配する結晶構造の情報を得ることができる、物質・材料研究において最も広く利用されている分析手法の一つです。PXRD の測定結果から結晶構造の情報を得るためには、リットベルト精密化法 (※3) が広く用いられています。この方法には本来の目的である結晶構造情報以外にも多くのパラメータが含まれ、それらの調整に大きな労力が必要とされています。

本研究では、このような状況が機械学習におけるハイパーパラメータ最適化 (※4) 問題と類似していることに着目し、同問題に対して有効なブラックボックス最適化手法をリットベルト精密化法に応用することで、PXRD パターン解析を効率化する手法を開発しました。本手法を用いること

により、熟練者を超えるフィッティング精度と解析速度が得られるだけでなく、熟練者がとる典型的な手順では到達できなかった結晶構造の候補を発見することにも成功しました。

本研究のアイデアは、解析結果に影響するパラメータが手作業で調整されている解析手法に応用可能であり、さまざまな分野における計測・シミュレーションデータ解析の効率化が期待できます。さらに、人間の思考の癖や思い込みを排除することで新しい解釈が導かれることも期待され、今後の物質・材料研究の加速と物理現象の理解への貢献が期待されます。

※1. ブラックボックス最適化

数理最適化問題のうち、目的関数や制約条件が解析的に与えられないようなものを、ブラックボックス最適化問題と呼びます。ブラックボックス最適化は、機械学習モデルのハイパーパラメータ最適化など、複雑なプログラムやシステムを対象とした実問題において実績があります。ブラックボックス最適化問題を解くためのアルゴリズムをブラックボックス最適化手法と呼び、代表的なものにベイズ最適化などがあります。

※2. 粉末 X 線回折 (PXRD)

物質に X 線を照射すると、X 線は物質を構成する原子の周りにある電子により散乱されます。原子や分子が規則的に並んだ物質 (結晶) の場合、散乱された X 線は原子や分子の並び方 (結晶構造) に応じて回折パターンと呼ばれる独特な強度分布を示します。この現象を利用して結晶構造を調べることができます。X 線回折 (XRD) は、一つの結晶 (単結

【研究概要】

国立天文台水沢 VLBI 観測所では、日本国内 VLBI ネットワーク VERA と韓国天文研究院 KASI (Korea Astronomy and Space Science Institute) で運用されている韓国 VLBI ネットワーク KVN (Korean VLBI Network) との共同研究ネットワーク KaVA (KVN and VERA Array) による大規模観測プログラムを進めています。そのうちの 1 つ、星形成研究のプログラムでは、国立天文台、KASI も参加する国際共同プロジェクトのアルマ望遠鏡 ALMA (Atacama Large Millimeter/submillimeter Array) のデータとも組み合わせ、大質量星団形成領域 G25.82-0.17 における複雑なアウトフローの構造について初めて解明しました。観測結果は、大質量星団でも太陽のような小質量星と似たようなプロセスで大質量星が形成されることを示しています。本研究は、今後の東アジア VLBI ネットワークでの大規模観測プログラムによる大質量星形成研究の第一歩として重要な成果となっています。本研究は、総合研究大学院大学 物理科学研究科天文科学専攻博士課程キムジョンハ氏（論文筆頭著者）が主導しました。

【論文情報】

- 掲載論文誌：“Multiple Outflows in the High-mass Cluster-forming Region G25.82-0.17” というタイトルで、The Astrophysical Journal, vol896, id127 として、2020 年 6 月 20 日号に出版されました
<https://iopscience.iop.org/article/10.3847/1538-4357/ab9100>。
- 共同研究先：国立天文台、総合研究大学院大学、大妻女子大学、山口大学、Korea Astronomy and Space Science Institute, University of Science and Technology (韓国)、National Astronomical Research Institute of Thailand (タイ)、Shanghai Astronomical Observatory, Nanjing University (中国)、North West University (南アフリカ)、University of Nigeria (ナイジェリア) による国際共同研究
- 科学研究費 (No.17K05398) の助成を受給

【本研究に関わった総研大教員・学生】

キムジョンハ（天文科学専攻 学生）、廣田朋也（天文科学専攻／国立天文台 助教）

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/6730/>

Media

■ 毎日新聞 朝刊

【記事タイトル】今週の本棚『ビーズでたどるホモ・サピエンス史——美の起源に迫る』

【掲載】書評：国際日本研究専攻：磯田 准教授

図書著者：地域文化学専攻 池谷 和信 教授

【日時】2020 年 6 月 27 日（土）

【URL】<https://mainichi.jp/articles/20200627/ddm/015/070/011000c>

■ NHK Eテレ 1

【記事タイトル】E TV 特集「心が躍る生物教室」

【掲載】地域文化学専攻 樫永 真佐夫 教授

【日時】2020 年 7 月 25 日（土）

【URL】<https://www2.nhk.or.jp/hensei/program/p.cgi?area=001&date=2020-07-25&ch=31&eid=23027&f=20>

Event Calendar

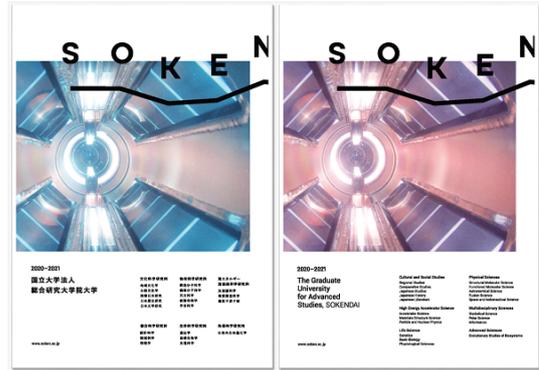
日程	イベント名称	実施専攻・基盤機関
2020/8/3～9/30	2020 年度国立天文台・総合研究大学院大学 サマーステューデントプログラム (夏の体験研究) https://guas-astronomy.jp/ss.html	天文科学専攻
2020/8/3～9/30	「種に還る果実」 鈴木 丘 展×SOKENDAI https://www.soken.ac.jp/news/6735/	葉山キャンパス
2020/9/3～10/20	梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」 https://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/umesao20200423/index	国立民族学博物館
2020/9/25	文化科学研究科地域文化学・比較文化学専攻 オープンキャンパス	国立民族学博物館
2020/10/1～12/15	特別展「先住民の宝」 https://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20200319takara/index	国立民族学博物館
2020/10/10	オープンキャンパス (入試説明会)	日本文学研究専攻・国文学研究資料館
2020/10/30	2020 年度第 2 回大学院入試説明会・講演会	核融合科学専攻
2020/11/6	みんなく公開講演会「ファンタジーの挑戦——もうひとつの世界を想像しよう」	国立民族学博物館
2020/12/5～12/6	総研大文化フォーラム 2020 「文化のレジリエンスとは？ - 〈異〉をつなぎ、未来へ-」 https://www.soken.ac.jp/event/6723/	文化科学研究科

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

■ お知らせ

大学要覧 2020 年度版（日・英）を発行しましたのでお知らせします。以下のページより PDF 版がダウンロード可能です。また、冊子をご希望の場合は、葉山キャンパス 総合企画課 広報社会連携係までお問合せください。

<https://www.soken.ac.jp/news/6703/>



■ 編集後記

未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい様々イベントが中止となる中、春季に引き続き秋季も葉山キャンパスでの学位記授与式及び入学式が中止となりました。そのような中にはありますが、彫刻展「鈴木丘×SOKENDAI」を十分な感染対策しつつ、8月3日（月）より開始いたしました。芸術を通じて、少しでも地域の皆様の日常が和らぐことを願っております。



彫刻展の様子（葉山キャンパス）

総研大基金によるご支援について

令和2年度4月、本学は戦略的な運営を支える財政基盤を強化すべく、総研大基金を創設しました。この基金を活用して、国際交流の支援、学生支援等を推進して参ります。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2020年8月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2020 SOKENDAI